

志村 恵「本の中のふたごたち」⑤

中川季枝子『ぐりとぐら』シリーズ

「ぼくらの なまえは ぐりと ぐら  
このよで いちばん すきなのは  
おりょうりすること たべること  
ぐり ぐら ぐり ぐら」

と歌いながら、大きなかごを提げて森の奥へ出かけていったのねずみを知らない人は恐らく余りいないでしょう。きっとこの文章をみなさんが読んでいるときにも、日本のどこかの保育園や幼稚園でこのうたが歌われているでしょうし、また絵本が読みきかせられているでしょう。

以前、この「ぐり」と「ぐら」がふたごであったことを知りませんでした。それどころか、ぼくはこの二人が二人ともオスであることすら知らなかったのです。「ぐり」はオスだと思っていましたが、「ぐら」はてっきりメスだと思っていたのです。ところが、去年の『母の友』10月号に出た作者中川季枝子さんへの訪問記事に、「兄弟ですよね」の質問に対して、何と「ふたごなんです」と即答しているのに出会いました。「あー！ぐりとぐらもふたごなんだ。しかも男男だ！」と僕は家中を走り回りました。

「ぐり」は、青い服を着ていますので、無批判にオスと思い、しかもたとえばスイス人に多い「ウーリ」と同じく「イ」で終わっているのでオスだと確信していました。これに対して、「ぐら」は赤い服を着ている上に（それがどうした、男だって赤着るぞ！ジェンダーフリーの時代だぞ！）、英語やドイツ語などが含まれるインド・ヨーロッパ語族では女性の名前の語尾に多い「ア」で終わっているので完全に女だと思っていたのです。「アンナ」とか「マリア」とか「ジュリア」とか「ア」で終わる女性の名前多いですよね。ということでさっそく、色々な人にきいてみたら、ふたごだとは思わなかったけど、男の兄弟だと思っていたという人が圧倒的で、今でもどうして僕だけ「つがい」だと思ったのか不思議です。どこをどう読んでも、夫婦だと匂わせる箇所ないんですね、これが。

さて、「ぐり」と「ぐら」が得意なのは、お料理です。『ぐりとぐら』で巨大な卵を森で見つけたときも、カステラ（これは「ホットケーキ」あるいは「パンケーキ」ではないかとの論争は、常に闘わされている）を作りますし、『ぐりとぐらとくるりくら』では、あさごはんを作って原っぱにピクニックに出かけます。実は、僕が生まれて初めて一人だけで料理をしたのが、小学校の一年生の時です。今では家族の誰一人信じようとしませんが（ネボスケということです）、朝、家族中で一番早く起きて、学校に行く前に「パンケーキ」を作って、一人で食べて、そして学校に出かけたのです。ですから僕にとっては、このカステラを作るというのが料理好きをなんだか実によく象徴している気がするのです。それから、「ぐり」と「ぐら」は僕と違って一人で食べて、一人で出かけたりしません。もちろん二人一緒であることは言うまでもありませんが、いろんな人に分け与えるのです。『ぐりとぐら』、『ぐりとぐらのおきゃくさま』では森中の動物たちがカステラ、クリスマス・ケーキのお相伴に預かります。また、『ぐりとぐらのえんそく』ではクマさんがお弁当を分けてもらえますし、『ぐりとぐらとくるりくら』ではくるりくらという「てながうさぎ」があさごはんに招待されます。「かすてらづくりの ぐりと ぐら/けちぢやないよ ぐりと ぐら/ごちそうするから まっていて」。大変気前がいいのです。

ものを一緒に食べるというのは、人間の最も基本的なコミュニケーションのあり方ですし、社会的な共同性をよく示すものです。一緒に食事をするすることで、相手を理解したり、自分を理解してもらったり

できるのです。それも、何を考えているかとかどういう思想を持っているかというだけではなくて、性格や生活習慣を含めて分かち合うことができます。そういうことで、家族にとって一緒に食事をするということがどれだけ大事かおわかりになるでしょう。小さいときは大変だから仕方がないことですが（でも努力してみてもいいかも知れない）、ある程度大きくなったら、ふたごはやはり一緒に食事をするのがいいような気がします。順番に（片一方だけ先にすませてしまうという意味）ではなく。もちろん、これは家族全員に当てはまることですが。とはいっても、二人一緒に授乳などはやはり至難の業ですし、三人以上だったらぼくにはもう想像すらできない世界です。

最後に「分かち合い」ということについてもう一言だけ書きたいと思います。「分かち合い」というと、ふたご関係者はついふたご間だけの「分かち合い」を考えてしまいがちですが、そうではなく「ぐり」と「ぐら」のようにそれを突き抜けて、もっと広い範囲の人と「分かち合い」たいと思います。知り合いのお子さんが面白い子で、お友達と遊んでいるとき、親が「おやつちゃんとみんなに分けなさい」と言うと、「はい」と返事して、公園で遊んでいた子ども全員におやつを分け始めたそうです。そうした無邪気さと優しさを持っていたいですね。

『ぐりとぐら』シリーズには、『ぐりとぐら』の他、『ぐりとぐらのおきやくさま』、『ぐりとぐらのかいすいよく』、『ぐりとぐらのえんそく』、『ぐりとぐらとくるりくら』、『ぐりとぐらのおおそうじ』、『ぐりとぐらとすみれちゃん』、『ぐりとぐらのいちねんかん』、『ぐりとぐらのうたうた12つき』、『ぐりとぐらのあいうえお』、『ぐりとぐらの1・2・3』、『ぐりとぐらのあいうえおと1・2・3』、『ぐりとぐらのおまじない』、『ぐりとぐらのしりとりうた』などがあります。全部福音館書店です。

『ツインズ』29号（ビネバル出版）から転載